

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370107900		
法人名	あん総合企画(有)		
事業所名	グループホームあん		
所在地	岡山県岡山市北区楷津1176-1		
自己評価作成日	平成30年7月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370107900-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370107900-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成30年7月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

基本概念としての安心・安全をモットーにし、家族、本人の相談、助言に配慮しながら支援しています。健康面には協力医院・看護師・介護職員が密に連携をとり支援しています。毎月1回 担当介護職員が利用者様各家族宛に手紙を書いて、ホームでの現状報告をしています。静かな田園地帯で季節感を十分に味わえる立地条件を生かして、敷地内、外の散歩や、コンビニに買い物などをすることによって、四季を感じながら楽しんで頂いています。また、グループホーム内の花壇に花を植えたり、裏庭の菜園に季節野菜を植え、収穫し、食べて頂く事で喜びを味わってもらっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームのリビングで皆さんに「おはようございます」と声をかけたたん、返ってきたのは利用者の皆さんの笑顔。多くのホームを訪問させてもらっているが、これ程の笑顔にいきなり出会う事はあまり無い。嬉しくてワクワクした気分は帰る時まで続いた。そして、笑顔の訳も徐々に解ってきた。その理由の一つは、利用者同士・利用者と職員の会話がとても多い事。しかも「世話をする人・される人」の関係ではなく対等のやり取りだ。管理者のお兄さんを相手に丁々発止と渡り合う〇〇さんに、負けず劣らず返して笑い合うお兄さんはアイドルだ。記録の中に見られる利用者の言葉も「あんたみたいな人は嫌いや」等、本音を利用者が遠慮せず口に出し、それを介護日誌に記録しているこのホームの姿勢が、利用者の笑顔につながっていると私は確信している。私が入居するとしたら「こんな楽しいホームが良いな」と思う。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた環境で地域の人々と穏やかに生活をしていただく。	デイサービスを運営していたこの地の出身の代表者は、高齢者が次第に増えていく実情に際し、地域のニーズを感じ、「安心・安全」を理念の基本としてグループホームを立ち上げ、それ以来職員と共に実践し続けている。	職員間ではホームの理念を念頭に置きながら、期間を設定した短期目標をそれぞれに掲げ実践につなげている。今後も振り返る時に評価し易い目標を立てて継続して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域等のイベントに参加したり、事業所のイベントに招待している。	代表者の地元とのつながりもあるかもしれないが、例えば平津小学校の運動会・近くの天理教の鏡開き等地域からの招待、中山中の生徒の職場体験依頼、近所の方々のカルチャーボランティア等々、多くの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の体験等を受け入れ認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見を活かし、事業所で出来る事に努めている。	ホームとしての色々な事情から定められた運営推進会議の規約に対応出来ない面もあったが、昨年度は規定の半数は取り組めた。今年度は確実な運営推進会議を開催する予定である。	グループホームという介護施設は「地域密着型のサービスであるので、本人・家族と共に、市の行政担当者や地域の方々や運営やサービスの有り方等、話し合いながら運営していかなければならないので、今後の努力を期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と連絡を取り、指導を仰いでいる。	運営推進会議の有り方や利用者とその家族との関係性や問題点についてその都度相談し適切な指導をもらっている。研修を重ね実力をつけてきた管理者は、今後市の指導をより一層仰ぎながら取り組もうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては出来ていないが、地域の意見で門扉は必ず閉めて下さいとの意見があり、守っている。	身体拘束をしないケアや虐待防止に関しては、日頃から職員間で注意をよく払っている。昨年度の運営推進会議においてもそれぞれに注目し研修や意見交換をしていて、参加者からの意見も記録されていた。	身体拘束について正しい取り組みをしており、現在は問題はないが、玄関の施錠に関しては、地域の方だけでなく、運営推進会議での話し合いが大切ではないかと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で取り上げ、虐待の理解を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修にて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、理解と納得の上で契約、入居としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を伝えやすい環境をつくる様に努めている。	家族に毎月綿密なお便りで、利用者の生活の状況・健康の問題・家族その他多くの情報を知らせている。また、ホームとしては、可能な限り家族に訪問して利用者と面会してもらえよう、色々な方法でお願いしている。	家庭の事情によってはホームを訪問しにくい家族もあるとは思いますが、これからは色々な工夫をして家族とホームの意思疎通がとれるようにしていきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会及び職員研修で意見や要望を聞いている。	このホームの特長の一つが職員間の関係性と思う。利用者との間柄だけではなく、職員同士も仲が良く和気藹藹で、何でも言い合う心のつながりが感じられる。定例会等、決められた場だけでなく、日頃から気が付いたら何でも言い合える状況がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見が言える環境作りをし、休みの希望を優先したシフト作成に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には研修の機会があれば積極的に参加を促し、社内でも月に一度の定例会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いろいろな研修への参加の際に同業者と交流し、ネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、ケアマネと伺い、ご本人・ご家族より聞き取りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネが家族の不安や要望を聞き取り、職員会議等で周知させ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーがケアプランを立て、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し、意思及び人格を尊重し、家庭的な環境の中で日常生活を送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所を拒否する事なく、来所の際、居室でのひと時を過ごして頂き、生活状況を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔、慣れ親しんだ時の写真等を使用している。	夫婦で入居している人、通い慣れた同法人のデイサービスに毎日のように行っている人、家族の面会がよくある人等、馴染みの関係や今までの生活の中で馴染んでいる場所、環境等を大切にしながらその人に合った支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士で席を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退居後は行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い出や希望に関心を持ち、ケアプランとして検討している。	軽度で元気な人は約半数。職員とは軽妙な会話やジョークが飛び交う等、自分の思いを伝えられる人が多い。職員と利用者で遠慮のない言葉のやり取りが出来るので思いや意向の把握もし易いが、重度の人も数人いるので、言葉に表現出来ないその人の心の内を表情や仕草から推察するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の前より、家族や本人から詳しく聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を把握し、ケアプランに導入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、Drなどと話し合い、介護計画を作成している。月1回定例会で話し合いをしている。	ADL等の援助すべき項目を細分化し、それに対してニーズを抽出して目標・支援内容を設定している。本人・家族の意向を基に職員間で話し合っってケアプランを作成し、定期的にモニタリングをして現状に即したプランになるように努めている。	介護計画書の本人及び家族の意向やニーズ(課題)を書くポイントは、担当者に説明したように、利用者が「ここでどう暮らしたいか」「何を望んでいるか」等思いや意向を把握し、具体的な目標・支援内容を設定して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録や申し送りを参考にして、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の人が宿泊される際は、布団等の提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外へ散歩する時、近くのコンビニに寄って買い物を楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院等には職員が付き添いをしている。往診は毎週来ていただいている。	協力医にはオンコールでいつでも連絡出来、緊急時には夜中でも来てくれるので安心出来、日頃からよく連携が取れている。今日も午前中は訪問歯科、午後からはDrの往診があった。その人の状態に応じて訪問看護が入っている人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックや排便等、必要事項は看護職に報告して、薬の確認や受診の判断を相談して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師及び主治医と連携して情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やDrとの話し合いで、ターミナルケアについての相談を早い時期から行っている。	開設して12年、これまで多くの看取りを経験してきた。現在もターミナルに近い人がいるが、利用者を家族の一員として大切にしているので日頃の手厚い介護はもちろんの事、ホームでの人生の最期も職員全員で見送るようにしている。また、家族に最期に立ち会ってもらう事で「家族との絆」を取り戻すような支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備、研修で実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で職員は周知している。	ホームのすぐ近くに池があり、行政・池の管理をしている地域の人・消防署等にも相談をしながら、水害対策には日頃から注意を怠らない。建物の2階がグループホームになっているので、外出等、2階から1階に移動する日常の行動が、そのまま避難訓練を兼ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の掛け方には十分配慮していくように、研修時注意を促している。	プライバシーや羞恥心には日頃から十分な配慮をしているが、親しい仲でも本人の自尊心を傷つけない声かけや接し方をしている。風呂の脱衣場とドア1枚で直結しているトイレもあり、例え失敗があってもすぐ対応出来るようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	たくさん声を掛け、本人の気持ちを知る機会をつくるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた生活を支援し、声掛けをし、傾聴する事に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヒゲや整容は本人と共に行い、訪問理容も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が対応しているが、下膳はできるかぎり本人にして頂いている。	一汁三菜の食事は職員が毎食手作りしており、昼食はこの日の当番の男性職員の定番料理という“おでん”をいただいた。職員手作りの梅干しとらっきょうは人気があり、ご飯をお替りする人もいて、楽しい会話と笑いが溢れていた。土曜日の朝は各自が前日に移動パン屋で買ったパンが朝食になると聞いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個人に合わせ、栄養摂取や水分量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、入れ歯の清掃を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに歩行可能な人は自分でしてもらっている。	排泄が自立で、自分でトイレに行く人は半数以上いるが紙パンツを着用している人が多い。トイレには洗浄用のボトルを置き、清潔にも配慮している。個々の排泄リズムを把握し、定期的な声かけをしてトイレ誘導をし、自立支援につなげている。	生活リハビリとして移動時に車椅子を極力使用せず、トイレにも一人で行く支援をしているので何かあっても身体的回復が早いと聞いた。自立支援に向けた取り組みがよく出来ているので、これからも継続して下さい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	時間を決めて体操を実施している。工夫としてはヨーグルトの導入をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則曜日を決めているが、個人の体調等で変更する事がある。	基本は週3回、午後入浴であるが、洗髪・洗身が自分で出来、自立に近い人は4名。車椅子の人はシャワー浴や清拭等に対応している。「毎日家に入っている。帰って入るからいい」と上手い言い訳をして拒否する人もいるが、日時をずらしたり、声かけを工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースを尊重し、自分の部屋で休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員と看護師が連携して、服薬管理に努め、体調に応じて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや洗濯物干し、新聞折り等、個々の持っている力に合わせた役割を支援し、毎週、楽しみながらの買い物を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は戸外へ出て散歩するように努めている。いつでも家族と外出できるように事前準備を整える支援をしている。	行楽の季節にはドライブや花見等を楽しみ、日常的には散歩や近くにあるデイサービスと交流する等、気分転換をしている。娘と旅行に行き、楽しい思い出作りをした人もいれば、家族に住んでいた家に連れて帰ってもらった人もいる等、家族の協力を得ながら個別の外出支援をしている。	盆・正月には自宅に外泊出来るように家族にお願いはしているが、なかなか実現は難しい面もあると聞いている。日頃の外出や外食を含め、短時間でも良いので引き続きこれからも家族に協力依頼をしてみして下さい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は渡していないが、近くのコンビニ、移動販売等には買い物できる機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	田園地帯に立地しており、四季の変化を窓越しで感じて頂いている。また、内庭で芋掘りなどもしている。	建物の2階にあるリビングは見晴らしが良く開放感があり、その中でゆったりと利用者同士、職員と利用者が談笑したり得意な塗り絵等をして、和やかに過ごしていた。毎週金曜日にあるという絵手紙教室の作品がリビングに展示してあり題材にも季節感が溢れていた。	食事の途中で職員が利用者に一言断りを入れてテレビを消す場面があった。五感を刺激するという意味では、テレビも大いに効果はあるが、アクティビティに熱中している時や、食事中は音量を下げるとか、消す等の配慮も必要と思う。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも移動し、趣味を共有し、楽しい時を過ごせるようにしている。9人が大家族のように生活できる雰囲気生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだ物を近くに置くようにしている。	居室はスッキリと整理された清潔な空間となっており、テレビや愛用の小物等を持ち込んで居心地よく過ごせる工夫がしてある。夫婦部屋も一室あるが、入居の順序で入る居室が決まってしまうので、現在、隣同士で入居している夫婦もいると聞いた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るまで見守るケア精神を持ち、手すりを利用して、安全に自立して移動出来るようにしている。		